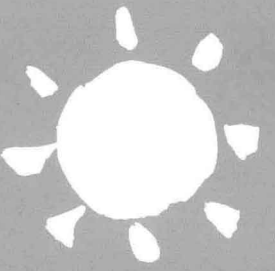
日本の子どもの詩

福岡

日本作文の会編



日本の子どもの詩

福岡

日本作文の会 編

岩崎書店

日本の子どもの詩　40　福岡

一九八二年三月一五日　初版発行

編　者　日本作文の会
発行者　森山甲雄
印刷所　株式会社　K・M・S
　　株式会社　金羊社
製本所　小高製本工業株式会社

発行所　岩崎書店
東京都文京区水道一―九―二
電話(〇三)八一二―九一三一(代)

©1982 Nippon Sakubun no kai 〔分〕8392〔製〕108040〔出〕0360
—Published by IWASAKI SHOTEN. Tokyo, Japan—

はじめに

各都道府県別につくられた四十七冊のこの本ぜんたいには、一九一八年「赤い鳥」が創刊されてからあとの六〇年間につくられた、日本の子どもの詩のおもなものが、年代順にならべてあります。

これらの詩は、そのときどきによって、児童自由詩、童詩、児童詩、児童生活詩、生活童詩、生活綴方の詩などともよばれ、世界にもまれなものであります。

これらは、ねっしんな先生たちによる創造的な教育のいとなみとしてうまれたものですが、日本の子ども自身がつくりだした芸術（現代の子どもの〝わらべうた〟）としても、大きな意味がありましょう。

わたくしたちは、このことを頭において、念入りにこの本をつくりました。

この一冊は、そのうちの「福岡編」であります。どうぞ、ひとつひとつていねいにお読みください。

日本作文の会

もくじ

1918
〜
1945

8
めだか
あんず
卒業
夕ぐれ
てまりこの花
ふきの芽
しほ川
みかん
すずめ

9
ふねのけむり
ぷろぺらの音
ばら

10
馬
黄色の花
鳥
ヒルノ オ月サマ
うしろすがた
こいのぼり

11
じてんしゃのあぶら
雀
星空
馬のはら
下駄
じゃがいも植え

12
馬
十銭玉
けむり
たこ
はぜの木きり
川入れ
お母さんの手
夕方になった
いねこぎ
きりわらきり
こうこく(広告)くばり

13
朝
夜の田
つゆ
麦ふみ
ねりんその花
きっちょんもず

14
月
夕方
弟

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

うすすり
ラジオ
22 霧
はかた駅

1945
〜
1959

24 草とり
ぶた
さくら
25 おねえさん
国語の本
おぼうさん
26 父兄会
雨の日
27 なわない
製鉄所
28 おはかまいり
少しは考えてやれ
29 おぼん
わたしの おかあさん
せんたく
30 くものす
にいさん
31 子どもの日
にくらしいかぜ
理科の発表
32 水たまり
ふきのにおい
33 るすばん
日食観測
おとうさん
34 水かけ
さし物の町の朝
35 草
当番
36 まっ黒な人
37 ひこうき
ボールあそび
38 とびあがり
もちなげ
39 せんたく
ちび
40 石山ではたらいても
ストが終って
41 いわしのうろこ
せんせいの はらいた
42 炭車
三だんそりとウルトラそり
43 ていでん

ひよこ 44
お母さん
夜のおつかい 45
炭坑
おてつだい
年とった牛 46
い工場
夜 47
ぼくはひとりぼっち

1960
〜
1969

こいのぼり 50
おかあさん
おとうさん 51
おじいちゃんと先生 52
黒人問題
おとうさん 53
新聞くばり 54
石炭
美唄炭鉱さい害 55
お金 56
父
兄ちゃん

かえる 57
ままごと
子ねこ 58
きんぎょのおはか
木のぼり 59
かいこん
雨 60
牛 61
おかあさん
父の仕事 62
水没した人よ
くも 63
かいうりさん
せんそうは きらい
石橋弘子先生の死 64
ちち牛の子 65
ミルク 66
小さな平和記念像
三川鉱ばく発 68
生命までは売っていない！
豊州炭鉱水没事故 69
こうつうじこ 70
とくせんだ
おねえさん 71
うめの花
ぶた

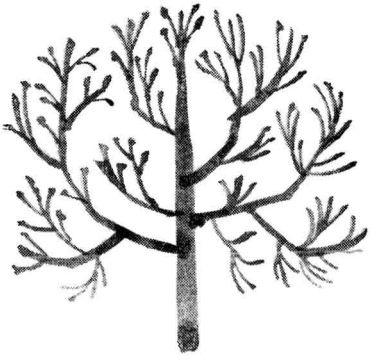
72 とびばこ
仕事
73 死んだかめ夫
かいだん
74 山の内君
転校
75 夕日
落ちていたガム
76 弟
雨のふる日

1970
〜

78 おとうさん
春を みつけた
79 にわとり
いで肉やで先生を見た
80 わらうな先生
お父さんのたん生日
81 教室では まちがえてもいいのよね
新しい教科書
82 部落差別
83 はたらいたこと
いっぺんでおよげた
84 先生は けがせんきいいな
かていほうもん
85 しょうぶゆ
ごめんなさい
86 かたぐるま
山
87 ぜんそく
池の中のわたし
88 かまきり
ぼくのおなら
39 ハウス作り
山ばと
90 爆音
あさがお
91 しわ
おたのしみ
92 げんしばくだん
たい風
93 北洋からかえった おとうさん
このごろの松尾君
94 冬のおとずれ
ぼくがおかあさんの目だ
95 大牟田川
96 お父さんの冗談
城山
97 築城基地

頭痛 98
たんじょうかい
てるてるぼうず 99
うんこ
ねんまつとりしまり 100
おとうさんと いっしょ 101
先生は どうして かんにんぶくろの
おをきったり するの
たんこうの へいざん 102
かけっこ

日曜日のおとうさん 103
おじさんの手 104
山野炭坑の爆発 105
父 106
卒業の日
＊
あとがき——福岡県の児童詩指導の歩み 107
この本の編集をした人たち 110



1918～1945
（大正7年）　（昭和20年）

＊ここには、「赤い鳥」時代の作品と「赤い鳥」の童謡調からぬけ出していったころの作品、そして、戦争がはじまるころまでのものがおさめられている。

＊はじめのころの作品はみじかく、しかし、きりっとしている詩情があり、そして、しだいに生活の実感を表現するようになって日本の児童詩の歴史が、これらの詩からはっきりとうかがわれる。

めだか

河野　巌　小4

きれいにならんだ親子のめだか、
これからおまえはどこに行く。
向うの方の大川へ。

企救郡槻田校

あんず

吉田静香　小3

あんずをちぎりにいった。
たたいたら、
たんぼの中におちた。
又たたいた。
こんどは、
まばゆくてたたかれなかった。

八女郡下妻校(指導)与田準一

卒業

村田ふく子　小6

私たちは明日きり、
もうこの学校にこないのだ。
なつかしい花園の花とも
別れるのかしら。
教室の二階の窓からも、
ながめられないのかしら。
友だちは遊んでいる。
なんとも思ってないのかしら、
式場のまくがひらひらとうごいている。

福岡市大浜校

夕ぐれ

友添義人　小3

あかい夕日を見ながら、
おかしをたべている、
夕ぐれ。

八女郡下妻校(指導)与田準一

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

てまりこの花

村上としえ　小6

ちいさい桶(おけ)で
米といでいる。
夕方、
てまりこの花
夕日にそまっている。

八女郡下妻校(指導)与田準一

ふきの芽

下川みさを　小4

あぜ道を走っていたら、
青いもの目にとまった。
ふりかえったら、
ちいさなふきの芽、
ふきの芽。

八女郡下妻校(指導)与田準一

しほ川

右田　栄　小5

しほ川におよいだ。
からい水にぬれながら、
あひるとおよいだ。
あがったら
ひらひらして
さみしかった。

八女郡下妻校(指導)与田準一

みかん

三宅重雄　小4

みかんをむいていたら、
夕日がやわらかに照らした。
夕日の中でみかんをたべた。

八女郡水田校

すずめ

井上　勝　小5　嘉穂郡鯰田校

風が吹いた。
風のとおりに、
すずめは飛んでった。
すずめの羽が
ぐらッとした。

ふねのけむり

田原　泰　小1　小倉市堺町校

ふねが行ってるよ。
けむりをはたにしてよ。
やぶれたしろいはただよ。
門司(もじ)にいってるね、
門司にいってるね。

ぷろぺらの音

名生和子　小2　小倉市堺町校

ひこうきのはね、
お日さまに光ってる。
ぷろぺらの音、
ほしあみにふるうてくるよ。
おきで、ぽんぽん船の音と、
入れちがってるよ。

ばら

中島　隆　小5　三池郡三池校

どんどん　ひとりで
やぶ下を　走ったら、
急に明るいような気がした。
ふりむいたら、
ばらの花が一つ
かげの方にひらいていた。

馬

横溝正治　小4

今日は正月だから、
馬は
（馬小屋）
まやの中でじっとしている。

浮羽郡水縄校（指導）福田秀実

黄色の花

益田重篤　小5

杉の木の下に
強い日をうけた黄色な花が
見える
時どき風にゆれて
ちょうちん行列のようだ
風にまじって麦のにおいがする

築上郡葛城校（指導）林厚茂

鳥

木下国人　小3

うぐいすがないた
向うでないた
かやの木がある中に
（じゅず玉）
じゅう玉が青くなっていた
松の木のしんを取った
べたっとした
せんこうのこのような
においがした
向うでは
うぐいすが何度もないていた

八女郡松崎校（指導）山中チト

ヒルノ　オ月サマ

木村正子　小1

ヒルノ　オ月サマガ
出テイル

三カ月サマダ
シロクモガ
オ月サマノヨコヲ
トオッタ

喜穂郡上穂波校(指導)野坂治

うしろすがた

岩田久利　小3

一番方の
坑内さんだろう
納屋の方へかへってゆく
うしろすがた
もってゐる　ツルハシが
光って見える

嘉穂郡伊岐須校(指導)野坂治

こいのぼり

斉藤暢子　小5

こいのぼり
今日は風がないので
じーっとしている
きっとつまらないのだらう
さをにつかまって
うなだれている

嘉穂郡大谷校(指導)長井盛之

じてんしゃのあぶら

土肥久子　小3

お向いのばんとうさんが
じてんしゃに
あぶらをぬっている
あぶらが水たまりにうかんで
風の吹くたび
あぶらの色がかわっている

小倉市堺町校(指導)中村暢

雀(すずめ)

江上つちゑ　小5

田んぼで餌(えさ)をひろっている

雀

首をひねってはひろい
首をひねってはひろい
ずっと向うまで行った

八女郡椋谷校(指導)入江道夫

星空

堤 さちえ 小3

星空にむかって
いっぱい手をひろげた
わたしの指の間にも
星の光がはさまった

八女郡田代校(指導)入江道夫

馬のはら

三宅 三千春 小3

馬のはらを
ちょっとおさえてみた
ぬくいはら

やはく、ふわっとうごいた
びっくりした。

八女郡田代校(指導)入江道夫
「やはく」＝やわらかく。

下駄(げた)

吉岡末子 高2

新しい下駄
はじめておろしてはいた。
二足三足歩いて
下駄のは　見た。
まだ美しかった。

鞍手郡西川校(指導)田代貫市

じゃがいも植え

溝田典生 小4

畠打ったあと
お母さんが掘んなさった

私はてぼ(かご)の上から取り出して
切った方を地につけて一つずつ入れた
入れたあとりっぱに並んでいる
お母さんが又掘んなさった
又一つずつ入れて行った
そのあとにこやしを入れた
こやしがじゃがいもにあたってひろがった

八女郡松崎校(指導)山中チト

馬

木下吉登 小5

お父さんが
そろそろ川に行って
草食わせとけとおっしゃった。
馬
道に立たせると
ぶるぶるいって回った。
何とも思わず
坂を引いて行った。

草のある所に連れて行くと
ぶるぶるいって食べない。
たくさんある所に連れて行っても
ぶるぶるいうばかり。
今度は三回ばかり回って
かけだそうとする。
お父さんは馬に肥たしていられる。
そのうち
人は十人ばかり集った。
逃がすものかと
しっかり握っていた。

八女郡松崎校(指導)山中チト

十銭玉(じゅっせんだま)

中野哲郎 小3

十銭玉もらった。
ニッケルだった。
ぴかぴか光っていた、
十銭玉の穴からのぞくと
むつ岳(がたけ)が穴にはいっていた。

鞍手郡西川校(指導)田代貫市

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com